



# 7月の園だより

令和6年7月1日

目黒区立祐天寺保育園園長

今年も梅雨の季節がやってきました。雨の日の中休みを挟みつつ、園庭では盛んに泥遊びが展開しています。乳児クラスの子どもたちも手先で触れてみることから始まりました。保育士が裸足で遊びながら誘うと、次第に大胆になり、自分で汲んだ水を地面に撒いては泥だまりに入ったり、カップですくってみたりと様々な泥の様相を楽しんでいました。そんな中であまり泥に触れることが得意ではない子に、カップに泥を詰めて渡してみると、すぐにカップを傾けて目の前の水たまりに泥を落としました。その“ボトッ”という鈍い音や泥水の少しの跳ねが気持ちをくすぐったようで、「ふふっ」とにっこりです。繰り返し渡すとその都度同じように落としては、今度はケタケタと声を立てて笑いました。すっかり泥の魅力にはまったようです。一人ひとりが様々な小さな発見を楽しんでいます。今月は、そんなどろんこ遊びの様子をお知らせします。

さて、いよいよ幼児クラスではプール開きがありました。安全面での約束事項等を確認後、水の精から子どもたちが楽しく安全にプール遊びを楽しめるという“魔法の水”とお手紙が届きました。各クラスのどこに届けられているか懸命に探し当てて、“魔法の水”をプールに入れ、無事に子どもたちの入水です。どの子も満面の笑みで初日のプールを楽しみました。

この夏、乳児クラスは水遊び、幼児クラスはプールと、心も身体も存分に使っていきたいと思います。健康管理等よろしく願いいたします。



〈7月の行事〉七夕集会 (3.4.5歳児)  
笹焼き (3.4.5歳児)  
避難訓練・身体計測

## 〈各クラスの砂あそび・泥あそびの様子〉

砂、水の性質に触れながら不思議さを感じたり変化を発見したりしています。

### 0歳クラス「泥ねんど」

砂場にチョコレートのような泥だまりがあり、保育士がそれをすくってテーブルに持ってくると、つかまり立ちをする子どもたちが覗きにきました。泥を保育士が捏ね始めると、すぐさま手を伸ばし、泥の中に手や指を沈めたり、両手で混ぜるようにしたり感触を楽しんでいます。「これもまぜてみようね」と白砂を合わせると程よい硬さの泥の粘土が出来上がりました。掌で触り泥しぶきをあげてみたり、ドーナツ状に型取りした物を掴んでみたり、顔に泥がついてもなんのその。小さな手で“ぴちゃぴちゃ、べちゃべちゃ、むにゅ、ぐちゃ”様々な感触を楽しんでいます。



### 1歳クラス「泥んこの感触」

保育士が砂に水を入れて、泥作りをしていると、“それ、それ、楽しそう”という表情ですぐに近寄り手を入れ感触を楽しんでいます。ドロドロの泥を混ぜてみては、真っ黒になった手を見たり、ギュッと握ったり掴んでは離してみたり、シャベルで容器に移してこぼしてみたりと顔や手を泥だらけにしながらか夢中で遊んでいます。まるで泥の研究をしているかのようです。

先日、友達と一緒に泥の入った洗面器に手を入れて、それぞれが泥の感触を楽しんでいました。お互いに目を合わせながら笑い合ったり、泥のついた手を見せ合ったりして、二人で同じ感触を味わいながら“楽しいね、気持ちいいね”と、泥の感触や心地よさを友達と共感しているようでした。



## 2歳クラス「手も足もまっくろ」

園庭で砂を入れた洗面器に自分で水を足していき、シャベルで混ぜています。水の量を増やしていくと、泥を見て、「チョコレートみたい」と話し、手で触ってみて「せんせー、みて、まっくろ」と、どろどろになった手を笑顔で見せています。また、水を入れている途中で地面にこぼしてしまうと、裸足で遊ぶ子どもたちの足元が泥状になってきます。その変化に気がついた子が今度は水を持ってきてたくさん地面にこぼしてみました。こぼれた水が流れていくように、園庭の端に向かって保育士が溝を作ると、泥んこの道ができ、「わあ」と喜んで歩いてみえています。泥の変化を楽しみながら、手でも足でもどろんこにたくさん触れて感触を楽しんでいます。



## 3歳クラス「泥だんご作り」

絵本『どろだんご』を読んで泥だんご作りに興味を持ちました。作り始めた日はバケツに入った土に水を加えることが楽しくなり、泥水作りで終わりました。次の日は、4歳児がちょうど良い泥を運んでくれましたが、お団子作りは難しく、力を入れて握ると潰れてしまいます。潰れた団子の一つひとつトレーの上に並べながら「ぼた餅みたいだね」「いらっしやいませー」とやりとりが始まり、その日はお団子屋さんが開店して皆で食べることになりました。その後、保育士や年上の友達に手伝ってもらうことで丸い団子を作れるようになり、今では白砂をかけることにも挑戦しています。泥だんご作りに面白さを感じながら、ピカピカになる日を楽しみに試行錯誤している日々です。



## 4歳児クラス「泥の池づくり」

ある日、テーブルで泥んこ遊びをしていた子が、途中で砂場にザーッと水を入れました。砂場で遊んでいた子が「あ、池が出来た」「あ、ここ掘れば流れてくるかも」「ありがとう、もっと流してー」と楽しみ始めました。それをきっかけに「こっちに掘っていこう!」「水が流れなくなったー、こっちにもっと水ちょうだい」「わかった、待っててー」と声をかけ合い、役割分担しています。水の流れを確認して掘り進めると大きな島と池が出来、そこに電車を走らせて楽しんでいました。自然なきっかけが子どもたちにはとても楽しい遊びになりました。



## 5歳クラス「泥の研究」

園庭に出ると「机の上の砂は熱くて日陰にある砂は冷たいよ」と気づいた子がいました。するとその声を聞いた子も一緒に触り「熱い砂に水を入れたらどうなるの」と疑問を持ち、実際にやってみることにしました。2人は「水を入れると冷たくなるはず」と予想していたので「全然冷たくないよ、熱いままなのは何で」と結果に驚いています。保育士と「不思議だね、何でだろう」と話していると、友達が次々に集まって「砂が熱すぎたのかな」「水が少なかったのかな」などと考えていました。不思議と思う気持ちや発見に子ども同士で共感したり疑問を一緒に考えたりしながら、知的好奇心や探求心が広がっています。